

# 說苑



## 道路鋪裝政策樹立の曙光

鋪 裝 子

◇

道路鋪裝政策を確立せざるべからざることの緊要なことは、多年に亘り屢々論述せられ、殊に時局下に於ては、軍備の充實、生産の擴充、貿易の振興の上から一層濃度に其の切要を叫ばれたのであって、問題は最早や議論の餘地なく、たゞ之に對する政府の認識の程度と、其の熱意如何と云ふ點に歸着して居つたのである。

今第七十四回帝國議會に於ても、道路鋪裝に付ては豫算總會や、分科會等に於て極めて眞剣なる論議が行はれ、或は熱烈な請願となり、強調な建議となつて現はれ、一面客冬の府縣會に於ても、鋪裝要望の聲に充滿して居たのである。しかも多數の府縣の實情は、政府に於ける鋪裝政策の確立を俟ち厭んだ結果、血を絞る様な逼迫せる財政の中から、獨力を以て其の一部を施行して居るのである。固より之等には計畫の大小はあるが、何れも地方民が鋪裝待望の

極に出でた、そして又放置し難い手段であらう。

斯る情勢に於ては政府としても、此の鋪装施設の解決をイツ迄も遷延し、開却することは瞬時も許さるべきではなかつた。

茲に於て愈々政府は、何等かの具體策を構ぜざるべからざる窮屈に立ち至つたので、遂に昭和十四年度追加豫算として、鋪装問題の形態を政策に盛ることとなつた。併しながら其の内容と計畫規模は、遅しと雖稍々増しであるといふ位な頗る輕少なものであつて、吾人の期待とは遙かに距りたるものであることは、遺憾至極であつて、たゞ漸く舞臺へ上つたと云ふ程度に過ぎなく、觀衆を沸すまでには至らない。



昭和十四年度に於て鋪装を施行せんとするは、國道三路線、延長十糠五、事業費三十萬圓、府縣道十四路線、延長六十八糠三、事業費百七萬餘圓である。工種はコンクリー

ト鋪装を主とし、簡易鋪装をも織込むものである。幅員は六米乃至九米であつて、五米五と云ふのも稀れにある。

事業執行者、費用負擔の割合等は、現行道路改良の一般原則と同様である。

此の鋪装を施行することに因つて受くる利益を見ると、左の如くであつて、其の直接費文けでも、國、府縣道を通じ、其の利廻りは五割二分又は五割五分に達する驚異なものである。

#### 鋪装に因る利益額調

(國道)

##### 一 鋪装延長

10,5糠

##### 二 鋪装工事費

300,000圓

##### 三 年節約總額

156,1100圓

(工事費ニ對スル割合五二%)

内 譯

(一) 道路維持費節約額 四、七〇〇圓

(二) 自動車ガソリン節約額 三〇、四〇〇圓

(三) 自動車消耗品 二六、五〇〇圓

(四) 自動車償却費節約額 九四、六〇〇圓

計 一五六、二〇〇圓

鋪装に因る利益額調

(府縣道)

一 鋪装延長 六八、三糸

二 鋪装工事費 一、〇七一、八〇一圓

三 年節約額 五八五、〇〇〇圓

(工事費ニ對スル割合五五%)

内  
譯

(一) 道路維持費節約額 三八、〇〇〇圓

(二) 自動車ガソリン節約額 一一〇、〇〇〇圓

(三) 自動車消耗品 費節約額 九五、〇〇〇圓

(四) 自動車償却費節約額 三四二、〇〇〇圓

計 五八五、〇〇〇圓

◇

内務省が過去數年來、其の政策の確立を企圖して果さなかつた道路鋪装問題も、兎にも角にも漸く其の曙光を見る



吾人は此の問題に付ては、更らに前途に希望を繋ぎ、根本的計畫に基づく、一貫した、輝やく鋪装政策の現出を囑望に堪えぬのであつて、總努力を爲すものである。茲に路政當局に對し篤く敬意を表すると共に、一段の御健闘を祈る次第である。

に至つたのは一期劃を爲すものであつて路政進展の爲、將亦長期戰即應の爲、快打には違ひなく慶賀すべきことではある。又固より追加豫算の性質に鑑みて、膨大豫算は許さるべきではない。が、之を以て必ずしも鋪装政策が完全に軌道に乗つたと云ふ譯ではない。寧ろ鋪装問題が、内務省の渝らざる奮闘に依つて、國論的に取扱はれて來たことに對する切迫詰つた措置と云ふか、微齟とも觀らるべき筋合ではあるまいか。